

JRS全日本リコーダー教育研究会

全日本リコ研だより 第4号

平成29年2月1日発行 JRS編集人 小山内 仁



巻 頭 言

全日本リコーダー教育研究会
会 長 牧 野 光 洋

「何を学ぶか」

学習指導要領の方向性が示され、第2章では、2030年の社会と子どもたちの未来には、子どもたちは変化を前向きに受け止め、社会や人生を人間ならではの感性を働かせて豊かなものにすることが期待されるとしています。

学校教育における「リコーダー教育」の現状はどのような経緯をたどってきたことでしょうか。昭和の時代、リコーダーが音楽教育に教具として導入されました。その授業において、リコーダーが「楽器」として扱われ教え導かれた子どもたちは、その後も音楽を楽しむ糧として、リコーダーとともに人生を堪能しているように感じられます。教具「リコーダー」として、接した授業では、楽しみ方をあまり感じられずに数年間を過ごしたと考えます。

リコーダー教育に特化して考えるとき、今回の改訂の枠組み引用すれば、リコーダーを用いて、「何ができるようになるか」「どのように学ぶか」新しい時代に必要とされる資質・能力の育成に関わってくる事になります。強いて言えば、現状の

教員の資質向上、大学の教員養成課程でのリコーダーとの関わりが大きな方向付けとなります。極論100%リコーダーが好きだと感じてくれる児童生徒を育て上げる。これが、本リコーダー教育研究会の先駆者でありリコーダー教育に尽力された方々の思いではないかと思います。さらに、この意思を継続する使命を担っている者は、私たちと考えます。振り返りましょう。児童生徒が生涯にわたりリコーダーを愛好していくだけの興味意欲関心を伝授できているだろうか。この意思を継続していくには、皆様一人一人のリコーダー教育にかける情熱とご努力が必要不可欠です。「努力しろ、難しいものと思うな。人柄を磨け、教養高き人格者に」と、一所懸命訴えていきます。

毎年3月、全日本リコーダーコンテストが開催されます。コンテストでは是非、ご自分が演奏するだけでなく、いろいろな団体の演奏を聴いて、一緒に学び合っていたいただきたいと熱望いたします。

聴き合うことが指導者の資質を高める一つの契機として「指導力」を結集させてください。画一的な人材ではなく、多様な人材がいることが教育力を伸ばすために必要です。今までどおりでは、変化しません！是非この一年は、指導者自らもリコーダーを吹いてください。初心に戻り、演奏の面白さが見えるかもしれません。「何を学ぶか」リコーダー音楽の面白さへの気づきを切望します。

第37回 全日本リコーダーコンテスト 審査員寸評



静岡市の大岡亮介君の演奏

東京藝術大学非常勤講師
審査委員長 吉 澤 実

静岡市のコンテスト審査で素晴らしい演奏を聴いた。大岡亮介君のヴィヴァルディ作曲ソプラニーノリコーダー協奏曲だ。静岡県の特設支援学校に通っている彼の心の響きが聞こえ、聴きながらとめどなく涙が溢れた。技術的にも素晴らしい演奏だった。

彼は中学一年生の時から静岡市の「吉澤実リコーダー講座」で学んでいた。自閉症の少年である。落ち着きがなく常に何かをし、話し出したら同じことを話し続けた。そんな彼が夢になったものがリコーダーだった。あの「ピタゴラススイッチ」を作曲し演奏している「栗コーダーカルテット」は彼にとって特別な存在である。「栗コーダーカルテット」のCDは全て聴き、CDに合わせて演奏した。暗譜してCDを伴奏によく聴かされた。ぼくは20年以上前に「栗コーダーカルテット」の栗原君のレッスンをし、「栗コーダーカルテット」と一緒に演奏している。そのことを知ってか、彼は「栗コーダーカルテット」のことを話し始めたらもう止まらない。母親の

サポートもあり自分で楽譜も書けるようになった。プログラムも作り、一人でコンサートもするようになった。母親に車で連れてきてもらった講座の会場に、いつの間にか電車やバスをつかって一人で通えるようになっていた。

ある日、富士市のロゼシアターで「吉澤実&栗コーダーカルテット」のコンサートがあった。彼から「是非とも“栗コーダーカルテット”と一緒に演奏したい」という強い願いを聞いていた。何とかその思いをかなえようとメンバーに相談し、アンコールで客席にいた彼を舞台に呼んだ。彼はもう嬉しくて、嬉しくて、嬉しくてたまらない状態で舞台上がってきた。そこで興奮の絶頂にも関わらず素晴らしい演奏をした。会場の拍手が永遠に続くのではと思うほど鳴り止まなかった。この時も胸がいっぱいになり涙が溢れた。彼のもっている才能を何とか引き出して将来に繋げられないかと思った。

静岡のリコーダー講座も終わり、ザルツブルクとミュンヘンの音楽大学を卒業して帰国して間もない静岡在住の青島由佳さんに彼のレッスンをお願いした。青島さんはフルートとフラウトラヴェルソ奏者で、帰国後すぐに僕の講座のアシスタントをしてもらった人だ。青島さんに講座を継いで

もらった後、彼がどうしているか心配だった。そんな時、静岡のリコーダーコンテストに彼が出場し、彼の母親の伴奏で素晴らしい演奏をしたのだから、もうとめどなく涙溢れた。ピアノ奏者である母親の指導はもとより、静岡のリコーダー教育研究会の代表で静岡のコンテストの運営や子どもたちの指導をしてくださっている鈴木光先生の長年のきめ細やかなご努力もそこにあった。鈴木先生は彼をずっと見守っている一人だ。人前で演奏することに慣れるため、鈴木先生はご自分の小学校に彼を呼び、皆の前で演奏させてくださったとのこと。

いったい全国大会ではどんな演奏をしたのだろう。ぼくは直接演奏を聴くことができず、審査発表の時に初めて金賞を受賞したことを知った。

一人の少年が、リコーダーという楽器によって音楽に触れ、音楽と共に成長し、人格が形成されていく素晴らしい出来事がここにある。大岡君の今後の成長を楽しみにすると共に、僕も彼と一緒に成長していこうと思う。(この文章は大岡君と保護者の承諾を得て会報に掲載しました。)



第37回 全日本リコーダーコンテストの 印象

大阪音楽大学名誉教授

北 山 隆

今回ちょっと気になる事がありました。これまでのコンテストで演奏回数の多い曲を、『模範演奏』という触れ込みでCDが発売されると広告がありました。

ほとんどの出場者が何らかの演奏例を参考に練習を重ねていると思います。サンプルがあるというのは助かります。

しかし『模範』とは何でしょう？

コンテストの在り方にも関わるこの言葉を、皆さんよく考えてみてください。

音楽って、もっと厳しく、無限で、心から心に伝わるものであることを。

今回も大きな感動がありました！

私はこのコンテストの審査を長くさせていただいているので沢山の感動を経験しています。だからJRSの活動をとても誇りに思っています。その感動のなかでも一際見事!と思った演奏がありました。

高校生・独奏の部で台湾から参加の林湘雅君の演奏でした。基礎奏法はともかくこのバロックの名曲を具現化するテクニックは十分なものでした。

快活しかも安定したテンポ設定は最後まで見事でした。

聴き始めてハッと気がついたのです。会場には電子

チェンバロが準備されていますが、張淑慧さんはグランドピアノを使いました。ソプラノリコーダーより落ち着いた音色と音量のアルトリコーダーと強力なグランドピアノの組合せ！

ピアノに喰われないかと心配したのも束の間、二人が寄り添って立派なアンサンブルを見せました。特にアルトリコーダーの低音域でのパッセージはピアノニッシモで対応するのですが、卑屈になることなく小音量のなかでしっかりとヴィヴァルディを謳いあげていました。

このピアニストは相当のキャリアの人だと思います。会場の全く初めて弾くピアノを駆使してソリストを立てているのですから。

我が国の音楽事情はある面でとても情けない事が多いですね。ソリスト重視主義というか、伴奏者はそこそこ弾ける人でいい、という姿勢ですね。音楽を上下関係で作るのです。そうじゃないんだ!と気付かせてくれるいい演奏でした。

全体をみて、以前にも述べたと思いますが、小学校の先生は子ども達に普段の生活の中でマナーを話しながら音楽を考えていただけたら、中学校ではその曲が生まれた風土、民族、社会環境などを話し合いながら曲作りを、高校生は演奏に鋭さのアドバイスをしていただけたらと考えています。

北海道・札幌市立西野中学校は音の質もアンサンブルもパーセル、またシャコニーのいい捉え方をしていました。沖縄・読谷村立古堅中学校も我が国の作曲家諸岡氏の作風を良く研究していたと思います。

最も印象に残ったのは鈴鹿市立白子中学校の五重奏です。立派にサリヴァンとヴェルディの吹き分けをしていました。

このアンサンブルの集合音の美しさは残念ながら他の出場者には見当たりませんでした。

小学校では鈴鹿市立旭が丘小学校の「カクテルズ」が音色、バランス、また音楽運びも良かった。

この音色のことでいつも思うのが、英国のキングス・シンガーズです。6人の男声が織りなす表情豊かなアカペラ集団ですが、見事な音色の集団なのにとっても似つかわしくない声質の人が入っている、なのにアンサンブルの音色は格別に素晴らしい。その人の存在が聴こえてこないのです。

アンサンブル出場者は(今回に限らず)集まって練習すればきっといいハーモニーが作れると思っている。ところが4人が集まって何日練習しても4つの声が重なっているだけ。個性をなくす事をしないものだから何時まで

経っても4人の存在があらわに出ている。

鈴鹿の子達、台湾からの出場者達は個性を消していい音を生み出しているのですね。

年々皆さん上手くなって来ていると思いますが、分からない事はiPhoneで簡単に知る事が出来るだけに、指先運動に走り、心境を伝える事が苦手になっている「演奏」が多くなってきたと思います。

それとオートになっているためドアは手で閉めなくても勝手にしまる、これが音の終わりを大切にしないことですね。音が下がる、終わりがだらしない。

昔の歌に、たしか古今和歌集にありましたね。

たんぎんぐ 音の頭のことばかり

終わりの姿誰ぞ知るらむ

詠人不知



意欲的な演奏を

リコーダー奏者

本村 睦幸

昨年のこのコラムは、「幅広いレパートリーに親しもう」というタイトルで書きました。

ご存知のように、リコーダーは長い歴史と幅広いレパートリーを持っています。リコーダーを学ぶということは、その様々なスタイルに時間をかけて親しみ、一人一人の音楽観を広げて行くことに他ならないといってよいでしょう。レパートリーの多彩さは、様式的に限られた他の楽器を凌ぐリコーダーの特長だからです。

今年のコンテストでは、小ホールでの演奏を聴かせていただき、全体として、実に多彩な曲の数々を一気に堪能できました。未知の作品に挑んで、試行錯誤を繰り返しながら、自分たちなりの表現を作り上げて来られた皆さんに拍手を送りたいと思います。一方で、たいへん異なる様式の作品がいろいろなやり方で演奏されたので、

コンテストの審査として点数化するのは非常に難しかったというのが率直なところでは。

例えば、音符は単純でもフレーズの表現が難しい曲もあれば、速い音符がたくさん並ぶけれど乗って吹きさえすれば簡単というものもあります。ハーモニーが精緻で音程のコントロールが非常に上手く行っていないとその素晴らしさが現れないというような曲もあれば、粗い音程でも生き生きしていればむしろその方が勢いが出るというようなタイプの曲もあります。そのように様々に異なる曲と演奏を共通の基準で点数化するのは困難です。そのような中での審査方針は審査員それぞれで異なるでしょうが、一つの指標となるのは「意欲的かどうか？」ではないでしょうか。難しい曲に挑戦しようというのも意欲的でしょうし、簡単そうに見える曲でも、それからどう豊かな表現を引き出すか探求するのも意欲的なことです。また、あまり知られていない曲を見つけて来て自分たちでその素晴らしさを見つけるというのもまさしく意欲的です。これからも演奏する皆さんの意欲を感じさせていただけることを大いに期待し、楽しみにしています。



第37回 全日本リコーダーコンテスト 審査を終えて

リコーダー奏者／上野学園大学講師

太田 光子

私は第33回全日本リコーダーコンテストから審査に参加させていただいております。今回は私にとって5回目の審査、小ホールでの「独奏・重奏部門」を担当いたしました。

全国各地から集まってきた、リコーダーに一生懸命取り

組んでいる皆様の演奏をお聴きできることに、本当に幸せを感じております。

今回もリコーダーの魅力をしっかりと伝える、大変素晴らしい演奏に出会うことができました。特に印象深かった団体を感想とともに、プログラム順に挙げてまいります。

まず中学生・独奏の部での、静岡県リコーダー教育研究会のテレマンのファンタジー。第1楽章ア・テンポ・ジストでの勢いに乗った流れのある演奏、第2楽章プレストでの躍動感。アーティキュレーションを変化させるなどの創意も見られ、音楽の方向が明確で鮮明な様子が印象的でした。

中学生・重奏の部では、新潟県新発田市立紫雲寺中学校のブラヴェのソナタ第3番。伸びやかでおおらか、それでいてエネルギーを感じさせる元気な演奏でした。転調する箇所でも思い切った表現で雰囲気を変える等、楽譜から音楽の中で起きていることをきちんと読み取り、表現を工夫していました。大きなミスもいくつかあったのですが、そんな「事故」など気にならないくらいに音楽的で、魅了されてしまいました。

同じ部でもうひとつ、オペラ「ペイシェンス」より序曲／「椿姫」より前奏曲を演奏した三重県鈴鹿市立白子小学校。全員が音楽を楽しんでいる様子がよく伝わってきました。聴いているこちら側も楽しい、楽しい！弾むところは弾む、歌うところは大いに歌い、踊るところは踊る。この音楽で何を表現したいのか、リコーダーの音色を通して場面ごとにはっきり伝わってきました。

一般・重奏の部では、ブラヴェの作品集より組曲を演奏した三重Twin Primeが際立っていました。楽章それぞれの特徴をしっかりつかみ、この曲の持つ美しさをよく生かしていました。伸びやかで透明な音色、流れるような音楽づくりが素晴らしかったです。

高校生・独奏の部では、静岡県立浜松工業高校のテレマンのファンタジー第11番。確かなテクニックと美しい音色に支えられた、素直でまっすぐな演奏がとても魅力的でした。次の課題としては、曲の中で起きていることをはっきり意識して表現できるようになること。そうすればさらに彩り豊かな演奏になっていくだろうと、これからの展望が楽しみになりました。

同じ部でもう一人、台湾・桃園市南崁高中のヴィヴァルディの協奏曲ハ短調も秀逸でした。テクニック的にも音楽的にもかなりの難曲なのに、いつもどの瞬間も音楽的でいいいに演奏していく様子は、本人が心からこの曲の演奏を楽しんでいることを裏付けけるものでした。指のテクニックは目覚ましい

ものがあるので、さらにダンギングのテクニックも磨けば、より完成度が上がっていくでしょう。

小学生・独奏の部では、北海道北広島市立西部小学校のヘーベルレ作曲のファンタジーが、テクニック的にも音楽的にも非常に優れていました。昨年までの素直でまっすぐな演奏も十分魅力的でしたが、今年は自ら楽譜から読み取った音楽を自分の言葉として語り、表現しようと試みる姿勢が演奏から垣間見え、大きな成長と今後の可能性を大いに感じました。

小学生・重奏の部では、ケアリーのカクテルズを演奏した三重県鈴鹿市立旭が丘小学校。梓からはみ出そうなくらい生き生きとしたスインギーなリズム感と、アンサンブルとしてしっかり整理されている、そのバランスがとてもよかったです。ともすると引っ込みがちになる内声部が積極的で、輪郭のクッキリした音楽づくりができていたのも印象深かったです。

この場には書ききれませんが、他にもステキな演奏に多く出会えたことを、申し添えておきます。出場者の皆さま、素晴らしい演奏をありがとうございました！コンテストに関わる先生方のご尽力、そして指導されている先生方の熱意に、感服しております。子供たちがこのような貴重な経験を機に、これからもリコーダーを吹き続けて、ステキな音楽といつも一緒にいる大人に育ってほしい、と心から思います。

コンテストの目標は、「リコーダー教育を通して、生涯におけるリコーダーの底辺を広げると同時に、リコーダー演奏を通して豊かな音楽生活を育てること」とのこと、このようなコンテストの存在を、リコーダー奏者として大変心強く思います。その目標のためにも、コンテストがゴールではなく、ましてや“模範”などにとらわれることなく、コンテストを「入り口」として、そこから大きく広がるリコーダー音楽の世界、いろいろなリコーダー音楽や多岐にわたる素晴らしい演奏に触れやすくする機会を、多方面からつくる工夫をしていけたら、と思います。

また次回どんな演奏が聴けるか、今からとても楽しみにしています。



「始める前に」、と「始めた後に」

リコーダー奏者

吉澤 徹

今年のコンテストでは、実に十数年振りに「大ホール合奏の部」審査を仰せつかり、新鮮な気分で皆さんの熱演を楽しませていただきました。当然の事ですが音のエネルギーも少人数とは違い、圧倒される思いで体に染込む響きを受け止めて居りました。昔、審査で合奏を聴かせていただく、やはり人数の多寡でエネルギーが異なり、その演奏迫力により良い悪いの判断が左右された事が否定出来ませんでした。しかし今回久しぶりに合奏に接すると、勿論全日本の

大会ですので、皆さんとてもハイレベルなのですが、割合少人数でもとても心に迫る演奏も有り、大人数とはいえ、何となく散漫な印象を持たざるを得ないチームも散見されました。

今回文章を認めるにあたり、幾多の演奏をCDで再度聴かせていただき、毎年の事です但し強く思う事は変わらず、手を替え品を替え皆さんに読んでいただく事になり恐縮ですが、暫し自らの演奏を振り返り、考えてみて下さい。

今回のタイトルですが、先ず「始める前に」です。例えば皆さんの選曲で＜舞曲＞が有るとします！

初めて譜面を渡され、担当パートを見た時、早速笛を「始める前」に、こんな事を考えて下さい。

この舞曲はどこで踊られたのだろうか？（タイトルに書いてある事も有りますね。その場合、その国の景色を

想像しましょう)

自分達の演奏の目の前で踊っているカップルは、どんな人たち？(若い男女？王様王妃様？プロの踊り手？)

自分達の居る場所は？(お城の大円舞会場？良い天気の中庭？それともホールの上？)

もし、自分がこのパートをリコーダーでなく様々な楽器群のオーケストラで演じていたら、どんな楽器？(弦？管？民族楽器？)

皆さんの想像力で色々な場面を先ず想像し、そこから音楽を「創造」するのです。笛の音、では無く「笛を使った自分の世界のあらゆる音の中の、唯一無二の音楽」をイメージするのです。そこから、例えばヴァイオリンだと思ったら、王様の為にとしたら、自分のリコーダーを心の景色のままに「弾いて＝弦ならば」みて下さい。つかえても心に見た景色のままに、音を心の中から紡ぎ出して下さい。

そして、次に「始めた後に」ですね。これは、上記イメージに沿って練習し、皆とアンサンブルをすればする程、「なんか違う」感が出てくる訳ですね。(勿論合奏なので、先生のご指導のもと、どんどん駄目出しに追われ、そんな事考えず繰り返し練習する現実かもしれません。でも、先生の駄目出しはどうして度々有るのでしょうか？具体的にはミスを直すという事の他に、先生ご自身が皆さんが出来るであろう曲の完成イメージとは「なんか違う」感を感じるから故、駄目出しになるのでは？)

20人のメンバーが有れば、上記練習では20の心象風景が個々の心に存在し、纏める先生の心と併せ21の風景が微妙に違って存在する訳です。当然イメージ共有のため話し合ったり、という事もかなり大事ですが、「始めた後に」上手いいかないとき程、絶対に当たり前の事、を当たり前に出来ているか確認してみましょう！

経験上、夢中になって素晴らしい曲を演奏していると知らず知らずのうちに譜面の情報と乖離する事が意外に多く有ります。

長いフレーズの後、ブレス前の音の音価は書かれている通りの長さで吹いていますか？

音が高く飛ぶ時に、それが弱拍になるのに異様にフォルテで吹いていませんか？

隣が低音域のテーマであるのに、伴奏の貴方のパートが吹き易く、思わず吹き込みすぎていませんか？

よく聴いてみたら4／4拍子のリズムを、誰が聴いても8／8拍子に聴こえる様に吹いていませんか？

つまり、何かイメージと違う演奏になった時、アンサンブルとして当たり前を書いてある音符の精度を高める努力をするだけで、知らず知らずのうちに個々のイメージが揃う事が多々有るのです。何故ならば心象風景は無限ですが、音符のデジタル的情報は唯一無二だからです。そこで勢いにまかせブレス前の音価は半額、良く鳴る音域は立場に関係なくフォルテ、音符を刻むリズムはいつの間にか細くなる等の「不揃い」は、全体のイメージを統一するのに多大な障害となってあなた方の前に立ちふさがるのです。

「始めた後に」どんなイメージで吹いていても、取りあえず書かれた音符情報にはっきりと違う事が有ればそれを取り除く、そしてその上で皆さんがニュートラルに自分達の音に耳を傾け、「始める前に」持っていた自分の風景と重ねる様に努力をする事で、それだけで目の前がすっきりとする様な体験が出来ると思います。どうぞ、「始める前」からワクワクする練習を始めてみて下さい！

また、皆さんの心が見える、素敵な演奏を心待ちにしていますね。



横浜国立大学非常勤講師
リコーダー奏者

川 端 り さ

今年のコンテストでは、ホール内での音の響き方の違いを鮮明に感じました。各声部の中で、チューニングが合っているグループの音は、他の声部と和音を演奏してもより正確さがあり、そのために全体の響きが倍増し、ホール内にしっかりと伝わってきました。逆に、各声部の中でチューニングにばらつきがあるグループは、他の声部と和音を演奏した際、ステージ上では響いているように聞こえましたが、響きがホール内には今一届いていないという印象でした。これはグループのサイズに関わらず共通する点でした。特に18番、沖縄県豊見城市立上田小学校の演奏は大人数にも関わらず、

チューニングがよく合っていて、響きの質がとても良いと感じました。チューニングを合わせようと努力すると、音が一直線で硬くなる傾向がありますが、上田小学校は音に伸びやかさがあり、音程だけではなく、音色を合わせることに留意されているのではないかと思います。

チューニングは、先生からの指示で高め・低めに音程を取ることが殆どだと思いますが、どんな世代でも、特に若い世代でしたら尚更、正しいチューニングを耳に覚えさせることで、演奏者が主体的にチューニングできるようになります。チューナーのように、一定の基準で音を発する楽器(機械)の音を出し、針を見ずに耳だけで、オクターブ、完全五度、完全四度、長三度、ユニゾンを純正に合わせる練習を個人的にするのが良いと思います。そうすれば、自分の楽器の癖が分かり、この楽器を吹く時はこの音をこれくらい高く(または低く)取らなければ周りと合わない、という対応が反射的にできるようになると思います。リコーダーは指孔を塞げばその

音が出ますが、リコーダーという楽器としての音程の癖、またモデル別、個体別の癖があり、必ずしもその時に必要とされている音程が正確に出るわけではないので、リコーダーは吹けばその音が出る楽器(鍵盤楽器のように演奏前にチューニングすれば音程が確定される楽器)ではなく、演奏者自身が音合わせをしなければならない楽器という意識を持つことがとても大切だと思います。もちろん、音程だけでなく、周りの音を聞いて音色を合わせるように耳を向けさせる指導、また音色を美しく豊かなものにするための呼吸法の指導もとても重要だと思います。

また、演奏パートの配置も興味深く、低音楽器が中心にあり正面を向いている方が、高音楽器との音量のバランスが良い傾向にあると感じました。リコーダーはウィンドウの向いている方向に音が飛ぶ楽器ですので、低音楽器の数に制限がある場合は、どのように配置すれば他の声部とのバランスがとれるのか、色々試してみるのがよいと思います。座奏、立奏の選択肢の中でも、何人が座り何人が立つかで、そのグループにとって最良の音の響きが得られると思いますので、配置に加えた選択肢として可能性を探っていただくとよいと思いました。



「音程、息づかいのこと」

リコーダー奏者

田中 せい子

今年は大ホールを担当させて頂きました。

毎年ハイレベルの演奏に感心させられ、リコーダーを大変素晴らしく演奏してくれる方達が日本にこんなにも沢山いることを心から嬉しく思います。

今年印象に残った演奏は次の通りです：

三重県鈴鹿市立旭が丘小学校：音の柔らかさがとても印象的でした。

北海道北広島市西部小学校：ドッド、シャノンともに音程の正確さ、アーティキュレーションの明確さが際立っていました。

沖縄県読谷村古堅中学校：難易度の高い曲であるにもかかわらず、大変安定しており、演奏技術の高さに驚かされました。

台湾、花蓮國風國中：技術の高さに加え、音程、リズムの正確さが際立っていたと思います。

この場で発表される方達には毎回只々賞賛の気持ちを送りたい、の一言につきますが、今後のよりよい演奏へ向けてのアドバイスを2点、ご参考までに申し上げたいと思います。

どのグループにも共通してできていたことは、リズムをきっちり合わせるということで、この点においては全グループ金賞レベルであったと言えるでしょう。

大きく差が出たことが音程、息づかいに関する点でした。コンテストの演奏はおおまかに4種類に分けることが出来たと思います。

- 1) 強弱を強調するあまり、吹き過ぎや弱過ぎになり、音色と音程についての配慮が欠けていたグループ
- 2) 音程はかなり合わせられているけれど、リコーダー本来の柔らかな音色が出ていないグループ
- 3) 音色はとても美しいけれど音程の詰めが甘いグループ
- 4) 音色、音程ともに美しく決まっていたグループ

1)、3)の傾向があったグループへのアドバイス

演奏されている皆さん自身がお気づきのことと思いますが、リコーダーは、気分のままに息を過度に吹入れたり、弱くしたりするとかなり耳障りな響きが生まれてしまいます。

気分の抑揚を息だけに頼らずリコーダーでの適切な表現(主に音の長短など)に置き換えて、その度合いを正確に判断しながら演奏して行く冷静さと、そのことに敏感に反応する耳、身体の柔軟さが求められます。これはリコーダー演奏、そして特にアンサンブルの基本となるところですが、1)、3)傾向のような演奏を耳にすると、この部分がまだ共通に理解されていないと感じます。これはチューナーなどでオクターブ、5度、3度、ユニゾン等の音程を聞き分けながら覚えていくというように、練習をしながら身につけて行くものです。曲を演奏すること以外に、自分が担当している和音の役割を要所要所で理解しながら、和音を合わせる時間を作ることによって訓練できます。

1)、2)の傾向があったグループへのアドバイス

2)のグループは基本的に音程合わせが上手いグループなので、それがクリアーできているところはまず素晴らしいと思います。もしかしてこういうグループの方達は吹奏楽も兼ねてされているので音程合わせが上手いのでは？と想像しています。今後充実させて欲しいのは音の響かせ方です。リコーダーは管楽器の中で一番、音を出す際に力を必要としません。奏者はただ力まず息を送ればよいだけです。そのような状態で吹いた際に、最も響きの多い美しい音色が出ます。演奏中の身体の余計な力みをなるべく取っていく様になると、より魅力的な音色を獲得することが出来ます。このこともリコーダー奏法の基本としてもっと定着させたい基本です。1)のグループもこの息づかいを覚える様にすれば、自然と音程の合いやすい音が出てくると思います。身体に余計な力を入れなければ、息が長続きするし、指が回りやすくなるはずですよ。

よく揃ったリズムに加え、音程の取り方、豊かな音色が加わって初めて本当に素晴らしいアンサンブルが生まれると思います。このことをこれからの演奏の指針として頂ければ幸いです。

第41回全日本リコーダー教育研究会 全国研究大会「沖縄大会」開催報告

- 日時：平成28年10月14日（金）
 ■会場：南風原町立中央公民館黄金ホール
 ■日程

9:20	9:45	10:30	10:45	11:35	11:45	12:30	13:30	13:45	15:00	15:15	16:15	16:45	17:15	19:00
受付	公開授業Ⅰ (小学校)	休憩	公開授業Ⅱ (中学校)	移動	研究 討 議	昼 食	開 会 式	講 演 会	準 備	講 習 会	閉 会 式		レ セ プ シ ョ ン	

■公開授業

	学 校 名	学 年	授 業 内 容	授 業 者
I	つかざん 津嘉山小学校	3 年	せんりつの感じを生かして リコーダーで歌おう	添石 千紘 南風原町立津嘉山小学校 教諭
II	なんせい 南星中学校	1 年	リコーダーアンサンブルの 響きを楽しもう	宮城 千枝美 南風原町立南星中学校 教諭

■講演会

内容：「郷土の音楽素材の発掘とその活用法」 講師：津田 正之氏

■実技指導

内容：「頭声発声と関連づけた音作り」 講師：吉澤 実氏

■第14回オータムコンサート

期日：10月15日(土) 場所：豊見城市立中央公民館大ホール

9:30	10:00	12:50	13:00	13:10
受付	開会式	第14回オータムコンサート	大合唱奏	閉会式

《オータムコンサート参加チーム》

～県内～

与那原小学校(合奏)／小禄南小学校(四重奏)／牧港小学校(合奏)／識名小学校(合奏)
 宮城小学校(合奏)／津嘉山小学校(合奏)／仲西小学校(合奏)／具志頭中学校(合奏)
 玉城中学校(合奏)／糸満小学校(合奏)／石川中学校(合奏)／古堅中学校(合奏)
 港川中学校(合奏)／南風原高等学校(合奏)／QUATETTO DOLLS(四重奏)
 Ensemble Beney(合奏)

～県外～

杉劇リコーダーず2016(合奏)／横浜リコーダーオーケストラ(合奏)／ゆるリコファミリーオ(三重奏)
 アッリエヴォリコーダーオーケストラ(合奏)

第41回全日本リコーダー教育研究会全国研究大会「沖縄大会」を10月14日（金）～15（土）の2日間、南風原町立中央公民館・豊見城市立中央公民館にて、大会主題『リコーダーで音楽の世界をひろげよう』を掲げ、公開授業（小中学校）、授業研究会、講演会（津田氏）、実技指導（吉澤氏）、参加者との交流会。2日目は沖縄県リコーダー教育研究会三大行事の一つ、「第14回オータムコンサート」を開催し、出演校（上記参照）の演奏を楽しみ、交流を深めることができました。（昨年より県外チームの参加有り）

前沖縄開催（H23.11.4）から5年後の大会開催と云うことで、準備もままならず慌ただしい大会となり、ご参加いただいた方々にはご迷惑をおかけした点多々あったと、お詫び申し上げます。無事に大会を終える事が出来たのは、これもひとえに、ご参加いただいた多くの方々、講演をいただいた津田様、実技指導の講師をしていただいた吉澤様、会場を使用させていただいた南風原町、各関係各位、後援していただいた各団体様、そして全国大会開催を応援して頂いた多くの皆様のおかげだと考えております。

誠に有難うございました。当日の様子につきましては、写真（次ページ）をご覧ください。

《公開授業》

津嘉山小学校
授業者：添石千紘



えっ！
本当に3年生

南星中学校
授業者：宮城千枝美



芸大生による
演奏を聴く♪



《講習会》



《講演会》

《交流会の様子》



おいしい郷土料理と
リコーダーの音色に癒されて



《オータムコンサートの様子》

楽しく！気ままに！誰とでも！



会場一体となって『芭蕉布』の大合唱奏♪

次回予告

第42回 全日本リコーダー教育研究会 全国研究大会「兵庫姫路大会(仮称)」

日 時：平成29年10月14日(土)
会 場：姫路キャスパホール

大会委員長 小林幹子(加古川市)

～ トピックス ～

1996年春にアッリエヴォ リコーダーオーケストラは誕生しました。

中学生時代の3年間、吹奏楽やリコーダーなどの音楽にどっぷり浸かり、年を経て再びリコーダーを吹きたいと



集まった、牧野光洋先生の元教え子達が結集してできたアッリエヴォ。

「アッリエヴォ」はイタリア語で教え子という意味があります。

私達は管弦楽曲からリコーダーオリジナル、ポップスなど様々な曲に挑み、毎週末の練習を一年中ほぼ欠かさず行っています。

家族並みに一緒にいる時間が長く、牧野先生にアレンジをお願いするも様々な要望、不満などストレートにぶつけており、結果的には先生のアレンジ力の素晴らしさに、とてもいい演奏が出来上がっているのだと思います。

リコーダーが好きで、「いろんな曲を吹いてみたい」「もっとたくさんの方にリコーダーの素晴らしさを分かってもらいたい」「とにかくリコーダーが楽しい」という気持ちで活動をしています。

2016年は結成20周年を迎え、東京渋谷の白寿ホールで盛大に記念演奏会を開催することができました。メンバー全員の熱心な練習と、来ていただいたファンの皆様、団員の家族の応援があったからこそ300名近くの方に、演奏を聴いていただくことができました。

20年という長い年月。いろいろなことがありましたが、社会人団体



特有の継続の難しさ、団員が全員集まって練習するという難しさをリコーダーへの愛着のみで乗り越えてきました。

仕事、結婚、出産、育児など演奏ができない環境

の団員がいつでも戻ってこられるよう、広い心でみんな集まっています。

20周年の演奏会は、もともとアッリエヴォが結成された時に思い入れが強かった曲などを選曲しました。私が中学生時代に演奏した曲で、ハーモニーの響きに感動して、体全体が痺れた曲が「キリエとグロリア」がその曲です。

曲の素晴らしさ、低音が響き、演奏していて心地よく本当に感激したことが忘れられず、今回の定期演奏会で演奏させていただきました。

その他の曲も、20周年に相応しいと思える曲をみんなで選曲。

流行も取り入れ、会場は1年以上前から予約をし、記念演奏会らしい素敵な定期演奏会を開催することができました。

記念Tシャツも作成し、今まで以上に充実した演奏会になったと思います。

これからもリコーダーの普及に励むと同時に、私達自身もリコーダーを楽しみ、生活を豊かにしていきたいと思っています。

応援、宜しくお願いいたします。

アッリエヴォ リコーダーオーケストラ 宮下京子

全日本リコーダー教育研究会役員名簿

役職名	氏 名	担 当	所属先(平成28年4月1日現在)	役職名	氏 名	所属先(平成28年4月1日現在)
会 長	牧 野 光 洋		練馬区立光が丘夏の雲小学校	名 誉 会 長	初 代 花 村 大 二 代 徳 山 博 良 三 代 中 澤 正 人	故人 故人 板橋区文化・国際交流財団
副 会 長	小山内 仁夫 小 池 純 夫 親 泊 明 美	財 務 統 括 広 報 統 括 研 究 統 括	平取町立平取中学校 南魚沼市立塩沢小学校 沖縄県リコーダー教育研究会	顧問	小 原 惇 三 木 貞 夫 影 山 建 樹 橋 本 勤 也 越 智 健 一朗 仲 本 朝 昭 皆 川 昌 雄 森 嘉 雄 日 置 美知代	元新潟県公立中学校 元大阪市立公立中学校 元静岡県公立中学校 元高知県公立小学校 元東京都公立中学校 元沖縄県公立中学校 元三糸市教育委員会 元新潟県公立小学校 元三重県公立小学校
本 部 役 員	井 戸 正 利 長谷川 紘 子 樋 熊 三津男 上江洲 学 漆 畑 友 美 小 林 英 明 長 岡 むつみ 大 吉 幸	財務担当(事務局長) 事業担当 広 報 担 当 研 究 担 当 財 務 担 当 事業担当(長野担当) 研究担当(三重担当) 事業 担 当	江東区立香取小学校 八王子市立城山小学校 新潟県リコーダー教育研究会 南城市立佐敷小学校 川崎市立久地小学校 佐久市立東中学校 鈴鹿市立旭が丘小学校 恵庭市立島松小学校	名 誉 会 員	神 正 治 (鹿児島) 諸 岡 忠 教 (東京) 中 島 聰 (東京) 玉 利 敬三郎 (東京) 南 雲 照 (東京) 門 野 フ ミ (鹿児島) 太 田 正 明 (長野) 花 岡 澄 (長野) 砂 川 徹 夫 (沖縄) 八 幡 健 一 (鳥取) 橋 本 研 二 (東京) 近 藤 誠 二 (北海道)	
事 務 局 長	井 戸 正 利	(兼 任)	江東区立香取小学校	相 談 役	吉 澤 実 上 杉 紅 童 本 村 睦 幸 大 村 竹 之 金 子 治 吉 澤 徹 北 村 俊 彦 北 山 隆	
事務局次長	牛 田 恵 美		東京リコーダー教育研究会			
地区担当役員	三 笠 裕 也 菅 圭 隆 小 形 隆 之 嶋 見 靖 之 石 川 祐 子 水 谷 美 恵 後 藤 俊 哉 鈴 木 光 乃 山 下 照 乃 小 林 英 明 長 岡 むつみ 金 秀 賢 香 山 美 穂 松 本 聖 子 福 屋 博 子 高江洲 博 子 劉 翠 華	北海道担当 栃 木 担 当 茨 城 担 当 新 潟 担 当 東 京 担 当 東 京 担 当 神 奈 川 担 当 静岡(静岡地区)担当 静岡(浜松地区)担当 長野担当(兼任) 三重担当(兼任) 大阪・韓国担当 兵 庫 担 当 宮 崎 担 当 鹿 児 島 担 当 沖 縄 担 当 台 湾 担 当	北斗市立大野中学校 足利市立東山小学校 古河市立古河第二中学校 新潟県立佐渡中等教育学校 荒川区立第九中学校 江東区立臨海小学校 横浜市立笠間小学校 静岡市立番町小学校 静岡県リコーダー教育研究会 佐久市立東中学校 鈴鹿市立旭が丘小学校 大阪リコーダー教育研究会 兵庫県リコーダー教育研究会 宮崎県立檉中学校 鹿児島市立甲東中学校 読谷村立古堅中学校 牧笛音楽藝術学苑			
監 事	馬 場 喜久雄		元総合初等教育研究所			
事務局員	安 藤 夏 生 安 藤 真由美 宮 下 京 子 奥 平 あゆみ		東京リコーダー教育研究会 東京リコーダー教育研究会 東京リコーダー教育研究会 東京リコーダー教育研究会			

(平成26年9月1日～平成29年9月30日)



編集後記

ここにリコ研だより第4号を発行する。今回もコンテスト審査員より御寄稿いただいたことに心から感謝申し上げる。

また「第41回全日本リコーダー教育研究会全国研究大会沖縄大会」の実践報告も掲載した。さらには、トピックスとして、昨年創立20周年を迎えた一般団体のアッリエヴォリコーダーオーケストラを紹介した。

右に、昨年の9月に静岡新聞に掲載された「子育てコラム」を掲載する。

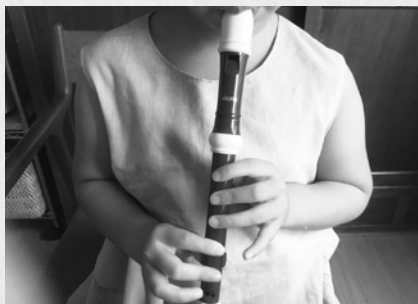
リコーダーが日本の学校教育に取り入れられるようになって半世紀以上にもなる。これは日本において「世代を超えて多くの人々が一つの楽器を演奏したことがある」ということを意味する。今では、小中学校の授業で学ぶだけでなく、音楽大学の古楽器専攻など専門的にも、またカルチャーセンターやサークルなど愛好家の趣味としても、様々な場で生涯楽器として親しまれている。

しかし知名度の高い楽器でありながら、その歴史や奏法の豊かさについては十分に浸透しているとは言いがたい。それは演奏家や指導者といったリコーダーを専門とする者にとって共通の思いであろう。

今回の全国研究大会沖縄大会において、全体講評をしてくださった文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官である津田正之氏が「楽器の特性を生かしたリコーダー指導」について言及したことにヒントが隠されているようだ。

多くの人々が一度は手にしたことのあるこの楽器の歴史や奏法の豊かさを、より広く知ってもらうために我々の弛まぬ研究は続く。

平成28年(2016年)9月



夏休み、わが家の8歳女子が力を入れていたのはリコーダーでした。1学期は聞くにたえない音を出していましたが、東京在住のクラリネット奏者の(私の)いとこにいろいろアドバイスをもらって、多少上手になりました。

8月下旬、単身赴任先の沼津市から静岡市葵区に帰ったら、旋律らしきものが吹けるようになっていて驚きました。

こうやって聞くにリコーダーの音って、情感豊かで素晴らしいですね。自分も吹きたくなって、8歳女子にソプラノリコーダーを貸してもらいました。小学3年生の課題曲です。比較的簡単。「さよなら」「エーデルワイス」を約40年ぶりに



演奏しました。ドレミファの連指、タンギングやビブラート。小学生のころに習ったことって覚えていたものですね。

以前、取材で調べたのですが、日本の音楽の授業でリコーダーが必修になったのは、1961年から。小学4年生に導入されました。71年には開始年齢が3年生に引き下げられました。つまり、現在は65歳以下の方なら、誰でも一度はリコーダーに触れたことがあるのです。これってすごいことだと思えます。

いろいろ話していて判明したんですが、私の母は「リコーダー教育」を受けていないんです。昭和13年生まれのことし78歳。リコーダーを吹いたことがない、と言います。なんだが現実感がありません。

母は「それじゃあ、いっしょに吹けるようになるう」と、リコーダーと教則本を買ってきました。親のこを養育するのはこっぴどいのですが、なかなかポジティブです。

母のスタンスは、「孫に教わる」。8歳女子も、こつなると張り切りまふ。人に教えるためには、自分が上達しなくてはなりません。夏場にうまくいったのは、こつした背景もあったようです。

入会のお知らせ

本会への入会手続きは随時受け付けております。一緒にリコーダーの花を咲かせましょう！

共に学び、共に成長するリコーダー愛好家の皆さんの入会を心よりお待ちしております。

本会の会員は次のとおりとする。

- (1)正 会 員 リコーダーを愛好する個人で別に定める会費を納める者
- (2)研究会会員 各都道府県を単位としたリコーダー教育研究会をもって組織し、構成員を5名以上有し本研究会に会員名簿と、会則を提出できる団体で本研究会が承認した研究会で別に定める会費を納める団体
- (3)会 員 本研究会が開催する全国研究大会及びコンテストで参加資格及び出場資格を得た個人及び団体で各事業の申し込みにおいて別に定める会費を納める者
- (4)維持会員 本研究会の目的に賛同し、別に定める会費を納める者及び団体
- (5)名誉会員 本会に対し特に功勞のあった者のうちから、総会の議決をもって推薦された者。

(名誉会長、顧問、参与、名誉会員及び相談役の名称で名簿に記載する。)

会費は、年会費として徴収する。

- (1)正会員一人＝ 3000円
(ただし研究会会員で登録した者は免除)
 - (2)会員一団体＝ 3000円
 - (3)研究会会員一研究会＝10000円
- ※研究会会員とは、各都道府県を単位としたリコーダー教育研究会をもって組織し、構成員を5名以上有し、本研究会に会員名簿と、会則を提出できる団体で本研究会が承認した研究会を指す。
- ※研究会会員に所属し、会員名簿に掲載されている者は正会員と同様の扱いとする。
- (4)会費の納入は、毎年6月末日までに納入すること。
(納入方法は別途定める。)

申し込み先

全日本リコーダー教育研究会

〒179-0072

東京都練馬区立光が丘夏の雲小学校内 牧野光洋

住所:東京都練馬区光が丘3-6-1

電話:03-5998-0501

FAX:03-5383-3594

<http://www.zenrikoken.com/>

Email zen.rikoken@gmail.com